

公衆衛生医師募集

いのち まも
1億2,000万人の生を衛る医師。



全国保健所長会

Japanese Association of Public Health Center Directors

日本公衆衛生協会

全国保健所長会では、少子高齢化、国際化、多様化した現代社会のなかで、地域住民の健康をまもり、地域の人たちが安心して生活できるように地域づくりを進めるために、保健所や都道府県庁等で、気概をもって働く公衆衛生医師を幅広く募集しています。

臨床の医師は命を救うことや心身の苦痛を軽減することができるのに対し、公衆衛生医師は患者の数を減らすことや疾病を予防すること、生活の質の低下を軽減することができます。地域の健康問題を様々な手法を用いて評価し、法律や制度の整備や準用、予算の確保や多くの関係者との連絡調整、中長期的計画の立案・改善という方法を用いて、健康で安全な社会をつくることができます。

私自身のことで恐縮ですが、大学を卒業して10年間、大学での研修や県立病院での実習、離島の診療所での臨床経験の後、県庁や県内各地の保健所で公衆衛生の仕事を経験しながら、いつのまにか約30年過ぎました。縁あって入学した母校の恩師に言われた言葉が、今でも頭に残っています。「医師の役割は決して「健康の落ち穂拾い」ではありませんよ。」これが、公衆衛生の道に進む大きなきっかけの一つになりました。

全国保健所長会は486カ所（2016年3月現在）の保健所の所長で構成され、大きく、「健康危機管理」と「地域保健の充実強化」、それらを実現するための「公衆衛生医師の確保と育成」を重要な課題と位置づけています。

健康危機管理の対象となる事象は、エボラ出血熱や新型インフルエンザ、デング熱等の感染症、多剤耐性菌の院内感染、広域化、重症化している食中毒や東日本大震災等の自然災害等、多岐にわたります。健康危機管理は、国、都道府県や保健所などの公的機関が中心となってネットワークを充実強化し標準化を進めることが重要です。

また、身体・精神いずれの障害・疾病の有無にかかわらずすべての人が、健康で、その人らしく、住み慣れた地域で、可能な限り生活していくことができる地域づくりは、これからの社会の基軸です。そのために、地域住民や市町村、地域の医師会、福祉関係機関等の関係機関・団体等と協働しながら、保健所では地域保健活動をさらに充実・強化していくこととしています。

地域全体の健康の保持増進を図っていくためには、地域の保健医療介護資源を知悉し、各制度の直接的担い手ではなく、中立的立場であり、公衆衛生の一線機関としての保健所が十分に機能を果たしていくことが重要です。そのためには、チームリーダーとしての公衆衛生医師の存在が不可欠です。

是非、私たちと一緒に仕事をしてみませんか。

全国保健所長会会長 宇田 英典

- 1978年 自治医科大学医学部卒業
- 1978年 鹿児島大学第2外科で臨床研修（県衛生部）
- 1980年 県立北薩病院、国立南中病院、鹿児島、奄美大島で外科・離島医療
- 1988年 国立公衆衛生院専門課程
- 1989年 鹿児島県加治木保健所等県内の保健所に所長として勤務（うち鹿児島県保健環境部保健予防課長として7年勤務）
- 2012年 鹿児島県鹿児島地域振興局保健福祉環境部長（兼）伊集院保健所長
- 2014年～全国保健所長会会長



**保健所や県庁などで働く公衆衛生医師を
全国のさまざまな自治体で
募集しています。**



地域の公衆衛生の中心的機関である保健所が、その役割と機能を十分に果たしていくためには、保健所長の役割が重要です。しかしながら、保健所に勤務する公衆衛生医師自体が少なくなっており、公衆衛生医師の確保や育成は、地域における公衆衛生の維持向上のために極めて重要かつ喫緊の課題となっています。そのため、保健所長会では様々な調査・実践事業を実施して、当パンフレットもそうした実践事業のひとつです。

公衆衛生医師へのアンケート調査などから、公衆衛生医についての情報は、学生時代の講義や教員、友人知人やWebから得ている方が多く、公衆衛生医師について知りたいこととしては、業務内容、やりがい、きっかけ、キャリアパスがあげられていました。

そのため、当パンフレットは公衆衛生に興味がある方へ、知りたい情報を届けることを目的に作成しました。このパンフレットを手を持った人が、一人でも多く同じ仲間になってくれることを期待しています。

平成27年度地域保健総合推進事業
公衆衛生に係る人材確保・育成に関する研究班

分担事業者 山本 長史
(北海道帯広保健所長)

- 1986年 旭川医科大学卒業
- 1986年 旭川医科大学医学部衛生学講座助手
- 1988年 北海道釧路保健所医師
- 1990年 北海道中標津保健所所長
その後、北海道内の網走保健所、浦河保健所、苫小牧保健所で所長
- 2005年 北海道保健福祉部福祉局高齢者保健福祉課(兼)介護保険課医療参事
- 2008年 北海道上川保健所(兼)旭川高等看護学院長、室蘭保健所で所長
- 2014年 北海道帯広保健所長

ご存知の方は少ないと思いますが、全国には486カ所の保健所があります（2016年3月現在）。

全国保健所長会は1947年に設立され、公衆衛生の向上に寄与することを目的として現在まで活動している組織です。すべての保健所長で構成され、独自の研修会開催や国への要望書提出、さまざまな研究事業等への参加等々、通常業務の傍ら積極的に活動しています。

保健所や市役所・県庁などで働く医師「公衆衛生医師」の認知度は決して高くはありません。臨床現場で働く医師とは仕事内容が大きく異なることもあり、医学生や研修医の皆さんをはじめ医療従事者からも仕事内容を十分に理解されていないのが現状です。

ぜひ全国保健所長会のHPもご覧いただき、もっと知りたくなったらお近くの保健所または全国保健所長会事務局にお問い合わせください。知っていてもいいこと、知っていた方がいいこと、たくさんあります！

全国保健所長会 広報担当理事 西垣 明子
(長野県伊那保健福祉事務所長)



- 1994年 鳥取大学卒業後、麻酔科医として勤務
- 2005年 川崎市入職。高津区・中原区の保健福祉センター（保健所）で実務医師として勤務
- 2011年 長野県入職。
松本保健福祉事務所（松本保健所）医監
- 2012年 木曾保健福祉事務所（木曾保健所）所長
- 2015年 伊那保健福祉事務所（伊那保健所）(兼)
木曾保健福祉事務所（木曾保健所）所長

公衆衛生医師募集 1億2,000万人の生を衛る医師。

公衆衛生医師とは？

◆公衆衛生医師の仕事とは？

「公衆衛生とは、生活環境衛生の整備、感染症の予防、個人衛生に関する衛生教育、疾病の早期診断と治療のための医療・看護サービスの組織化、および地域のすべての人々に健康保持に必要な生活水準を保証する社会機構の整備を目的とした地域社会の組織的努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延ばし、身体的・精神的健康と能率の増進を図る科学であり技術である。」(1920年)。これはアメリカの公衆衛生学者Winslowによる定義です。

公衆衛生には多くの分野があり、世界中のさまざまな場所で働く医師がいますが、全国の保健所や都道府県庁など地域保健分野で働く医師もその一人です。ここでは「公衆衛生医師」と呼ぶことにします。

地域保健分野で働く公衆衛生医師は、都道府県の場合は保健所や本庁と呼ばれる都道府県庁など、政令市・中核市の場合は保健所や保健センター、市役所などで勤務しています。全国の都道府県や、政令市・中核市は、地域保健法に基づいて保健所を設置することが定められています。また、保健所長は原則として医師であることも定められています。

これまで公衆衛生医師は、感染症、母子保健、生活習慣病・がん、難病、精神保健福祉、食品や環境などに関する生活衛生、医事・薬事などの分野で取り組んできました。加えて近年では、地域包括ケアシステムの推進や健康危機管理への取り組みなど、一つの専門性だけでは解決できない課題に対して、医療や介護・福祉の専門職、地域住民を含む関係者、関係機関等と協働しながら行政の立場から対策を講じていくような仕事に、全国の公衆衛生医師たちが取り組んでいます。

保健所を設置している全国の自治体では、保健所長をはじめとした地域保健分野で働く医師を公衆衛生医師として雇用していますが、その多くははじめから公衆衛生分野で働いていたわけではなく、5年から10年、中には30年近く臨床分野で働いた後に転職してきた医師たちです。各自自治体に就職した後に、地域保健分野の実務経験や様々な研修等を通じてスキルアップを図りながら、公衆衛生医師として勤務を続けています。

◆公衆衛生医師に求められるスキルとは？

地域保健分野で働く公衆衛生医師に求められる能力としては、一般的な医学の知識はもちろんですが、疫学の知識やそれをを用いて地域の健康課題を明らかにできる能力が求められます。これは臨床医で言うところの診断能力に該当すると考えられます。

さらに、地域の健康課題を改善するためには、何らかの対策を進めていく必要がありますので、その対策を進めるために「組織」を動かす必要があります。それは自身が所属する組織であったり、他の関係機関であったりしますが、

それら組織をマネジメントする能力が求められ、これは臨床医で言えば全人的医療を提供することと似ているかもしれませんが。業務の中では感染症や食中毒、医療安全や児童虐待など健康に関する危機管理を取り扱うことから、健康危機管理と呼ばれる危機管理能力も求められます。

また、都道府県や政令市・中核市といった地方自治体の職員として働くことから、行政職員としての能力も必要です。

◆キャリアパスの一例（群馬県の例）

☞ 詳細は群馬県ホームページへ！
<https://www.pref.gunma.jp/07/d0100010.html>



*「受講できる研修の具体例」で例示されている研修は、職位にかかわらず、他の職位でも受講できます。

公衆衛生医師募集 1億2,000万人の生を衛る医師。

保健所医師の日常

～木原久文医師(愛媛県八幡浜保健所医幹)のある一日

8:20 出勤

愛媛県では、県都松山市に自宅があり、毎朝特急列車でそれぞれの勤務地へ通勤する職員も少なくありません。ただ、災害等の発生時に迅速に対応できるよう勤務地での居住を求められる場合があります。私は職場まで徒歩20分のところに住んでいます。

8:30 始業

朝礼で、各係長が当日の業務予定と係員の所在を課内に報告し、業務を開始します。(写真①)

10:00 特定感染症検査

毎週、HIVをはじめとする性感染症の無料匿名検査を実施しています。検査前後の面接では、性感染症に限らず一般的な健康相談になることも多いです。(写真②)

12:00 昼休み

この日は、名物の八幡浜ちゃんぽんを食べに行ってみました。(写真③)

13:00 管内A市へ出張

A市の健康づくり計画について市の担当者と話し合うため出張です。保健所では、県の計画だけではなく、管内市町の健康や保健、福祉に関する計画策定にも積極的に関わっています。感染症対策や認知症対策などを進めるには多くの機関との連携や協力が不可欠となります。

14:30 健康講話

話し合いの後、そのまま、A市の住民を対象とした健康講話に従事します。この日は、メンタルヘルスがテーマでした。住民の方々と直接顔を合わせる事業は、地域のニーズを教えていただく上で大変貴重な機会です。(写真④)

16:30 報告

実施した事業は、所属長への口頭および書面で報告をします。重要な案件については、直接所長にも報告します。当所には所長と私の2名の医師が勤務しています。(写真⑤)

17:15 終業

この日は定時で退庁します。至急対応が必要な事案や翌日に持ち越せない書類仕事がある場合には定時退庁出来ないこともあります。業務の効率化を図り、残業ゼロを目指します。

(写真① 朝礼風景)



(写真② 特定感染症検査)



(写真③ 昼休み)



(写真④ 健康講話)



(写真⑤ 所長へ報告)



保健所医師の非日常～原子力防災訓練に参加

7:30 出勤

この日は内閣府主催の原子力総合防災訓練です。

8:30 訓練開始

原発のオフサイトセンターで医療班員として従事します。医療班員は直接診療に携わるのではなく、原子力災害が発生した際の情報収集や被ばく傷病者の搬送手段、搬送先医療機関に関する連絡調整、必要な医療人員の派遣を国に要請するなどの業務に従事します。その際には、様々な機関との綿密な連携が求められます。(写真⑥)



10:30 訓練事態の進展

現場には緊張感が漂い、訓練事態の進展に伴って各グループが慌ただしく動き回ります。



14:30 原子力災害全面緊急事態(訓練)

事態はさらに進展し、総理から緊急事態宣言が発せられました。私も放射性ヨウ素による内部被ばくから身を守るために必要な安定ヨウ素剤の配布、服用に関する業務や自治体の避難退域時検査・簡易除染支援、避難住民の被ばく状況の確認など被ばく医療に関する対応に追われます。(写真⑦)

18:30 訓練1日目終了、帰宅

2日間にわたる訓練の1日目終了し帰宅します。明日の訓練に備え準備をしなければなりません。

非日常の場面

現場では様々なことが起こります!

地震・津波・噴火など災害時の公衆衛生活動



2009年新型インフルエンザ夜を徹しての対応



感染症患者搬送訓練



「食中毒疑い」の医療機関からの第一報を受けて所内打ち合わせ



WHO本部保健医療事情調査(地域保健総合推進事業) 全国の公衆衛生医師で調査に



先輩医師(保健所長)からのメッセージ



大阪府四條畷保健所 所長
宮園 将哉

1996年 自治医科大学卒業後、大阪府に就職。大阪府立病院(現・府立急性期・総合医療センター)での臨床研修の後、救急診療科(救命救急センター)に勤務。
2000年 大阪府健康福祉部医療対策課に勤務。以後、八尾、富田林、高槻市、泉佐野、岸和田の各保健所で主に対人保健サービス担当課の課長等として勤務。
2009年 大阪府健康医療部地域保健感染症課に勤務。結核やエイズ対策とともに新型インフルエンザ等を含む感染症対策を担当。
2010年 大阪府泉佐野保健所に保健所長として勤務。以後、池田保健所長を経て
2014年から現職

私は自治医科大学を卒業後、臨床研修の後に救命救急センターで働き始め、5年目から卒業義務として大阪府庁で公衆衛生医師として働くことになりました。私は学生時代から公衆衛生の分野にはほとんど興味がなかったのですが、1年目に担当させて

もらった仕事が予想外におもしろく、やりがいや達成感を実感できたこともあって、現在に至るまで保健所や府庁で働き続けています。

臨床現場では患者さんをよく診ることが正しい診断や治療につながるのと同様に、公衆衛生の分野では、関係者・関係機関や住民など、地域の声に常に耳を傾けることがいい仕事につながると考えています。そのため、私もできる限り地域に向向いてみなさんの話を聞きながら仕事をするように常に心がけています。

現在、私は大阪府の保健所長として勤務する傍らで、公衆衛生医師の人材育成に関する研究班に参加しています。その中では、現在臨床の各分野で整備が進められている新たな専門医制度の導入に合わせて、公衆衛生の分野でも専門医資格を創設する準備が進められていて、そのためのプログラムや認定基準、マニュアルなどの作成作業などを担当しています。

公衆衛生医師の仕事については、学生時代に公衆衛生の授業や実習で学んでいるにも関わらず、医療関係者の間でも十分に理解されていないのが現状です。しかし、実際に働き始めてみると、仕事にはやりがいも大きい上に、医師としての特性を十分活かせることがわかり、充実した毎日を送っています。ぜひみなさんも、私たちと一緒に公衆衛生の分野で働いてみませんか。



長崎県県南保健所 所長
長谷川 麻衣子

1998年 琉球大学医学部卒業
その後琉球大学第一内科等で勤務
2007年 長崎大学熱帯医学研究所大学院卒業
2007年 長崎県入庁 県央保健所地域保健課
2011年 福祉保健部医療政策課係長
2013年 県南保健所所長

私が公衆衛生行政に入ったきっかけは、すでに保健所長をしていた大先輩から声をかけてもらったことです。学生時代、国際保健に興味のある学生が集まって活動しているクラブでタイ、ラオスなどでプライマリヘルスケアの体制整備を支援している国際協力の現場見学の研修の企画や、1960年代に沖縄で行われた『寄生虫ゼロ作戦』に関する公衆衛生学教室の聞き取り調査を手伝いました。

また臨床実習の時に麻しんが流行し、予防接種で予防可能なはずの麻しん性肺炎の小児を診たのは衝撃的な経験でした。そういった経験を通し、臨床とは違ったアプローチで、社会的な大きな枠組みをつくり動かすことで人々の健康を支える公衆衛生活動の大切さや面白さに惹かれていました。

そこで卒業すぐに公衆衛生行政へ、とも考えたのですがまずは臨床を経験しろという先輩の助言もあり内科で働き、基礎系の大学院も卒業しました。現在に至るまでのすべての経験が今の仕事をする上で役立っています。

私自身は、赴任したら大体3年間目処で体制づくりを心がけています。最近では、災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)の全国的なシステムづくりが大きな流れの一つになっている中、長崎県DHEATの設置に取り組みました。災害により非日常的な環境で生活する人々の心身の健康を支えるため、公衆衛生畑にいる医師は重要な役割を担います。

「まずは石の上にも3年、公衆衛生行政に挑戦してみませんか?」



群馬県安中保健福祉事務所 医監(保健所長) 武智 浩之

1998年 群馬大学医学部卒業
その後群馬大学泌尿器科等で勤務
2003年 泌尿器科専門医 取得
2008年 群馬大学大学院 終了 泌尿器科指導医 取得
2010年 群馬県西部保健福祉事務所 部長
2012年 群馬県東部保健福祉事務所 技師長
2015年 群馬県安中保健福祉事務所医監(保健所長)
(兼務) 群馬県吾妻保健福祉事務所 医監(保健所長)

「公衆衛生の世界はとても広いです」。群馬県立がんセンターで泌尿器科医として勤務していた縁もあり同じ県職員である保健所医師として異動しました。やりがいがあるのか・・・臨床医からの転身を不安に自分も周囲も思っていました。それが

は、公衆衛生医師としての準備範囲は無尽大だからです。その中でも保健所が重要な役割を担っているのが感染症対策です。医療機関・医師会・管内の市町村・消防などとの協働がとても重要な分野です。保健所の役割としては、平常時の連絡・訓練などを通じた体制整備だけではなく、実際に現場に向向いて対応を関係機関と協議します。

感染の拡大を防止するために迅速に対応しなければなりません。的確かつ円滑な対策を行うために“通常時からの顔と顔が見える関係の構築”がもっとも有効であることは想像できると思います。医療の現場からでは見えない世界です。よ。

また、群馬県の特徴として群馬大学公衆衛生学教室と県がしっかりと連携していることがあげられます。県の正規職員として勤務をしながら公衆衛生医師として経験を積むだけではなく、群馬大学大学院生として同時に研究をすることも可能です。公衆衛生の世界の広さをご理解頂けますので、詳細はぜひ群馬県ホームページをご覧ください!

もっと詳しく 先輩医師の話を知りたい方へ!

PHSS (Public Health Summer Seminar) 公衆衛生
若手医師・医学生サマーセミナー

地域の公衆衛生活動の実際を知っていただくため、若手公衆衛生医師・医学生・臨床研修医のみなさんに向けてセミナーを開催しています。普段、直接耳にする機会の少ない行政や地域保健の現場の生の声を聞くことができると好評です。過去のセミナーの様子はこちらから。
http://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/html/JN_PHS_S.html

「全国保健所長会 サマーセミナー」で検索!



グループディスカッション
(ケースメソッド)の様子

日常・非日常の経験を共有
(講義)



公衆衛生医師募集 1億2,000万人の生を衛る医師。

先輩医師からのメッセージ



愛媛県八幡浜保健所健康増進課
医幹 木原 久文

2008年 愛媛大学 卒業
2008年 福山市民病院（初期臨床研修）
2010年 岡山県精神科医療センター
2014年 愛媛県八幡浜保健所健康増進課
医幹

私が公衆衛生の世界を知ることになったのは、初期臨床研修2年目に経験した保健所研修です。その後4年間の臨床経験を積み、平成26年度から保健所で勤務しております。日々の業務は、デスクワークから相談業務、健康危機事案への緊急対応など様々ですが、住民や他

の機関、団体に満足してもらえよう、温かみのある行政サービスを心がけています。

当保健所管内には四国内で唯一の原子力発電所があるため、万が一に備えた緊急被ばく医療や原子力災害対策など社会的な責任の重大な業務もありますが、新しいことに挑戦する機会にも恵まれており、社会をより良いものにするための仕事に携われることにやりがいを感じます。

世の中には魅力的な仕事がたくさんありますが、その中にあってこのパンフレットを手にとっていただきありがとうございます。この仕事は、決して華やかなものではなく、榮譽や賞賛を集めるものでもありません。ただ、社会に対して極めて重要な責任を負っている仕事であることは間違いありません。臨床の先生方は医療機関で、我々は行政の中で、それらの負託にこたえるのが使命だと思っております。全国各地の志を同じくする先生方とともに働けることを楽しみにしております。



宇都宮市保健所保健
医療監 上原 里程

1993年 東京慈恵会医科大学 卒業
1993年 自治医科大学附属病院 小児科レジデント
1995年 東京慈恵会医科大学 小児科
2003年 東京慈恵会医科大学大学院 修了
2004年 自治医科大学 公衆衛生学
2013年 宇都宮市保健所保健医療監

小児科医を7年、大学で公衆衛生の教員を10年ほど経験した後、縁あって中核市である宇都宮市の保健所に勤務することになりました。保健所勤務のきっかけは2011年の東日本大震災です。被災地支援などを通じて、これまでのキャリアを活かして現場で公衆衛生の仕事をしたという想いに至りました。

宇都宮市保健所では感染症や食中毒など保健所本来の仕事に加え、健康づくりや特定健診・特定保健指導あるいはがん検診など市町村が担う保健事業を通じて市民の皆さんへ身近な保健サービスを提供しています。保健所での役割は主に医師として専門的な助言指導を行うことですが、その際に心掛けていることは、共に働く様々な職種職員に対してできるだけわかりやすく伝えるということです。この点は、患者さんやご家族に病状などを説明していた臨床経験を活かせる場面でもあります。

さらに、臨床医としての経験は医療機関や医師会など外部の医療関係団体との連携場面で大いに役に立ちます。また、公衆衛生の最前線に身を置いていることで研究の視点でもリアルな課題を見出すことができます。一人ひとりの患者さんを診るのが臨床医の仕事であるならば、人々の健康を集団として診るのが公衆衛生医師の仕事だと思っています。様々な職種の方々と住民の健康を守る仕事に関わることが公衆衛生医師のやりがいにつながるものと思いますので、是非、この世界に飛び込んでみてください。



東京都北区保健所
保健予防課長
高橋 千香

2002年 東京女子医科大学卒業
2002年 東京医療センター臨床研修
2004年 東京女子医科大学呼吸器内科入局
2010年 大学院修了（公衆衛生分野）
2010年 東京都入職
2010年 東京都多摩小平保健所 保健対策課感染症対策担当係長
2012年 東京都北区保健所 保健予防課結核感染症係長
2013年 東京都北区健康福祉部 副参事
2015年 東京都北区保健所 保健予防課長

学生時代のフィールド活動の経験から、将来は地域に密着した臨床医になりたいと考えていました。しかし、臨床現場では解決できない問題も多く、個々の患者さんだけでなく地域の健康づくりに関わることのできる公衆衛生医師への転職を決めました。

保健所の業務は多岐にわたり、あらゆる職種と連携していくことが重要です。また東京都では勤務する保健所によって関わる業務や地域の課題も異なるため、自己学習に加えて、医学以外の様々な視点を取り入れて、地域に還元できるような業務にあたっています。

感染症発生時などは休日にも対応しますが、臨床医と比べるときちんと休日や有給休暇を取ることが可能です。また、私は保健所に転職してから産休・育休を取得しました。子どもの急病で休むこともありますが、夫婦共働きの職員が多く周囲の理解があることに感謝しています。医師は少数職種なので課題もありますが、ワークライフバランスを保って仕事を続けていきやすい環境にあると思います。

はじめは仕事の成果がわかりにくいことに戸惑うかもしれませんが、健康に関するあらゆることを扱うという「公衆衛生マインド」があれば、臨床や研究とはまた違った充実した仕事ができるのではないかと思います。興味を持たれた方はぜひ、ご連絡ください。

もっと詳しく 公衆衛生医師のことを 知りたい方へ！

公衆衛生医師（保健所等医師）の確保について

厚生労働省の情報サイト。公衆衛生医師の業務内容、働く場所、キャリアパス等について解説。ページ下部のリンクから各自治体の公衆衛生医師募集ページに飛ぶこともできます。

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/koushuu-eisei-ishi/topics/tp040621-02.html

「厚生労働省 公衆衛生医師確保」で検索！

全国保健所長会HP

公衆衛生情報：医師募集情報や採用・育成に関するガイドライン、保健所ってどんなところ（Q&A）など、公衆衛生に関心をお持ちの医学生・臨床医師等の方への情報を掲載しています。

<http://www.phcd.jp/>

「全国保健所長会 公衆衛生医師」で検索！

期待の若手シリーズ — 私にも言わせて！

全国の自治体の現場で働く「若手」公衆衛生医師からのメッセージを掲載しています。

http://www.phcd.jp/02/j_koushusei/

「全国保健所長会 月刊公衆衛生情報」で検索！

公衆衛生医師募集 1億2,000万人の生を衛る医師。

1億2,000万人の いのちをまもる医師。

私たちは、1億2,000万人の 生命 をまもりたい。

私たちは、1億2,000万人の 生活 をまもりたい。

私たちは、1億2,000万人の 今 そして 未来 をまもりたい。

感染症や食中毒など、さまざまな健康危機への対応を通して「安全」を。
ぬくもりの感じられる地域社会づくりを通して「安心」を。

人が健康であるということ、
それは単に 病気でない ということだけではないはず。

1億2,000万人の 健やかないのち をまもりたい。

それを脅かすすべてのものから。

公衆衛生には それができる と信じて。

私たちは「公衆衛生医師」です。

保健所や県庁などで働く公衆衛生医師を
全国のさまざまな自治体で
募集しています。

公衆衛生医師募集

検索



全国保健所長会

Japanese Association of Public Health Center Directors

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-8

Tel: 03-3352-4281 Fax: 03-3352-4805

日本公衆衛生協会

Japan Public Health Association

このサイトは平成25年度地域保健総合推進事業補助金で作成されています